令和８年度第３回　瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会

令和７年度夢づくり地域交付金ステップアップ事業　事後評価
令和７年度夢づくり市民活動補助事業　事後評価

議事録

日　　時：令和８年９月７日（月）　午後６時００分から午後７時３０分

場　　所：瑞浪市役所西分庁舎　１階会議室

出 席 委 員：大宮　康一（委員長)、辻本　紀み子（副委員長)、谷本　陽子、柴田　洋子、
富田　宏、有賀　秀雄

※委員６名中６名の出席であり、委員の過半数の出席となり、瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会規則第６条第２項の規定により、本会議は成立。

事　務　局：瑞　浪　市　長　水　野　光　二
みずなみ未来部長　加　納　宏　樹

事務局職員：市　民　協　働　課　長　奥　谷　ひとみ
まちづくり支援係長　吉　田　和　史
まちづくり支援係　大　髙　まりあ

次　　第：１．市長あいさつ
２．委員長あいさつ
３．審査会の進行等についての説明
４．活動報告（事後評価）
５．閉会

【１　市長あいさつ】

皆さん、こんばんは。本日は、令和８年度瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、富田委員におかれましては、金沢からオンラインでご参加いただき重ねて感謝申し上げます。

夢づくり交付金制度は、市民と行政による協働のまちづくりを目指し、地域活動や市民活動を物心両面で支援するためスタートし、約 20 年が経過しました。多くの地域の方々が創意工夫を凝らし、交付金を有効活用して事業を実施してくださっていることに、改めて敬意と感謝を申し上げます。

本審査会では、審査員の皆様から適切なご判断やご指導、ご助言をいただくことで、各団体の活動がさらにレベルアップすることを期待しております。本日は、ステップアップ事業 1 団体、市民活動補助事業 2 団体のプレゼンテーションが予定されています。各事業に私も参加させていただき、いずれも提案どおり素晴らしい事業が行われたと評価しております。皆様におかれましても、忌憚のないご意見をいただき、今年度の事業展開へとつなげていただければと思います。本日はよろしくお願いいたします。

【２　委員長あいさつ】

本日も活発で忌憚のないご発言をお願いいたします。皆様のご意見やご経験、直感的な視点も含めた多様な観点からのご意見は、市民の皆様の活動に対する有益なアドバイスにつながるものと考えております。様々なご経験を持つ方が集う本日の場が、より有意義なものとなるよう、積極的なご発言をよろしくお願いいたします。オンラインでご参加の富田委員におかれましても、ぜひご遠慮なく活発にご発言いただけますよう、よろしくお願いいたします。

【３　審査会の進行等についての説明】

≪審査会の進め方について事務局より説明≫

【４　活動報告（事後評価）】

≪①各団体からの事業報告≫

～省略～

≪②質疑・意見交換≫

明世地区まちづくり推進協議会（以下「明世」）

〇委員

ホタルが自然に近い形で他の場所でも見られるようになったことを喜ばしく思う。大きな事業でもあり、成果が出ていると感じる。認知度向上の成果目標は来場者 1,000 人以上となっているが、実績を伺いたい。また、パネルの設置後は、ごみや落ち葉への対応を含め、継続的な環境整備が必要になる。今後の管理体制を伺いたい。

●明世

令和 7 年度の「明世ホタル NIGHT」の来場者数は 2,000 人であった。管理は事務局を中心に、ホタル関係の委員と協力して行っている。鑑賞会当日は、危険防止の表示を追加するなど、必要に応じた対応を行っている。

〇委員

資料の日付に誤りがあるため、訂正をお願いする。また、ホタルの里づくりを継続するためには、後継者の確保が重要である。今後、育成者をどのように増やしていく考えか。

●明世

資料の日付について、訂正しお詫びする。後継者の確保は継続的な課題である。ホタル NIGHT では、捕獲体験ツアーの実施や、育成活動への参加を呼びかけるチラシの配布を行った。地域を問わず、活動に関心のある方へ参加を呼びかけている。具体的な対策は今後の課題であるが、引き続き地道に担い手を募っていく。

〇委員

後継者対策として、2 点提案する。1 点目は、草刈りなどに協力できる人を募る「明世ホタルファンクラブ」の設置である。2 点目は、釜戸町など各地域の関係者が意見交換できる「瑞浪市ホタルネットワーク」のような場の設置である。

●明世

釜戸町とは昨年度から連携しており、今年度も共同で取組を行った。取組は着実に進展していると感じている。今後は、ホタルが生息する他地域とも連携を広げていきたい。

＜市長コメント＞

単年度の取組にとどまらず、数年をかけて一つひとつ課題を解消しながら、計画的に整備を進めてこられたことを大変評価している。後継者の確保については、コミュニティ・スクールと連携し、児童・生徒がホタルの育成や保全活動に参加することが重要であると考える。子どもたちが家庭でも活動に関わり、その経験を通じて将来の担い手が育っていくことを期待したい。今後は、コミュニティ・スクールでの学びとの連携を一層深めるとともに、児童・生徒に加え、高校生の力も積極的に活用していただきたい。整備したホタルの里を有効に活用し、来年度以降もさらなる成果につなげていただきたい。

ネコタスみずなみ（以下「ネコタス」）

〇委員

地域猫活動の実施件数を見ると、地域によって差があるが、対象の猫がいない地域については個人で対処しているのか。分析や、データに基づいた検討はされているか。また、企業協賛金について、当初 20 万円の予定が実績ゼロだった一方、寄付は 3 名で 51 万 4,000 円と多大である。特定の企業を想定していたのか、1 件も得られなかった理由は何か。

●ネコタス

猫の多寡は把握しきれていない。網羅的な調査ではなく、餌やりさんの存在やそこからの依頼で判明することが多く、猫の移動や餌場によって偏りが出る。企業協賛金については、メンバーが限られており企業への活動に時間が割けなかったのが現状である。

〇委員

住民との話し合いで猫を地域に戻す際、理解がどこまで得られるか懸念していたが、インタビューで住民のストレスが「いやし」に変わる場面を見て、活動が根づいていると実感し非常に良いと思った。

〇委員

市民の意識変化について、インタビューの方以外で実感できている状況はあるか。

●ネコタス

これまで活動した地域や現在の関わり先では、住民や区長・班長などからご理解と協力を得て進められており、協力を受けていると実感している。

〇委員

メンバー5 名中 2 名が土岐市の方とのことだが、瑞浪市民が土岐市の方とどのように連携体制を作っているのか。活動は貴重である一方、野良猫の糞害など敬遠される理由もある。今後どのように実践していくか。極力野良猫が減ることが一番大事だと思うが、今後の考えを聞かせてほしい。

●ネコタス

土岐市の団体とは常に連絡を取り合い、譲渡会の合同開催や相談への協力など緊密な連携体制をとっている。手術して地域に戻してもふん尿問題はなくならないが、手術によりこれ以上増えることはない。数が増えないように今後も不妊去勢手術とリターンを続けていきたい。

＜市長コメント＞

今年も様々な活動をしていただき、しっかりと成果を上げていただいて本当にありがたい。貴重な活動である一方、なかなか一筋縄ではいかない難しい側面もあるのだと思う。様々な会場で皆さんが啓発に取り組まれている場面にも遭遇し、一生懸命頑張ってみえることを確認させていただいた。5 名のメンバーや多くの支援者の方々がいらっしゃるとはいえ、先ほどのプレゼンにあった「地域猫活動の流れと役割」を見させていただくと、本当に大変な作業をこなしておられる。ただ猫を捕まえて処置するだけでなく、そこに至るまでの様々な手順を踏んで進めていくことに対しては、相当な労力と時間が必要なのではないかと推察する。メンバーの皆さんで活動をしながら、理解者や賛同者を増やし、地区ごとに活動するメンバーを確保していくことができれば、より一層効果的な活動になっていくのではないか。今回の活動によって「488 匹の増加を阻止することができた」という発表があった。これは非常に貴重な成果である。各地区に組織や担い手ができていけば、こうした成果がさらに増えていくのではないかと考えられる。

一般社団法人瑞浪青年会議所（以下「青年会議所」）

〇委員

申請時はどんな絵になるのか懸念したが、審査会での意見を反映いただき、子どもたちと虹を描いた素晴らしい作品になっていると感じた。目的や検証も整理されており評価する。10 年後にも価値を残すため、SNS 発信に加え、市民が訪れる機会となるイベントの実施も必要ではないか。今後の展開について伺いたい。

●青年会議所

今年度、市民公園で市民向けイベントを実施する方向で検討している。壁画に触れる企画も組み合わせ、継続的に親しむ機会をつくりたい。

〇委員

壁画内に入り込むような写真を撮影できるよう、ペンキ缶、刷毛、帽子、エプロンなどの小道具があれば、より楽しめるフォトスポットになるのではないか。若い世代を含め、撮影に訪れる人が増えると思う。

●青年会議所

市民公園での事業において、壁画をフォトスポットとして活用する予定である。ローラーや刷毛などを置き、絵の一部として撮影できる演出を検討している。事業後も、写真を撮りたくなる環境づくりを考えたい。

〇委員

壁画はまちの新たなシンボルになり得る。フォトスポットとしての活用に期待する。ライトアップは 3 月 30 日で終了しているが、今後の予定はあるか。また、収支決算書の壁面占用料について、「アート体験」の備考欄の内訳が異なっているように見受けられる。

●青年会議所

ライトアップでは、手すりに固定した 4 基のライトのうち 3 基がボールの衝突により破損した。今後実施する場合は、破損対策を検討したい。収支決算書は備考欄の記載が誤りであり、実績額及び合計金額が正しい。訂正し、お詫びする。

〇委員

今後の維持費はどの程度かかるか。日光や雨により壁画の見た目が変化すると思うが、対応はどうか。

●青年会議所

壁面占用料として年間 2 万 4,600 円が必要となる。青年会議所において、今後 10 年間の費用を確保している。5 年後に再度コーティングを行う予定である。作品が消えないよう保護する一方、一定程度の汚れはストリートアートの味として維持する考えである。

〇委員

汚れを作品の味として扱う考えについては、地域住民や市民との認識にずれが生じないよう、将来像を共有することも必要である。

＜市長コメント＞

壁画アートプロジェクトについて、実現に至るまでには多くの御苦労があったものと察する。様々な手続も必要であったと思うが、事業を着実に実現されたことに敬意を表する。私自身も完成前は、どのような作品になるのか心配していた。構想段階の絵は見ていなかったため、除幕式当日に初めて拝見したが、雨天ではあったものの、この作品であれば多くの方に評価していただけるのではないか、子どもたちにも喜んでもらえるのではないかと感じた。大変良い作品を描いていただいた。一流のアーティストによる作品であることを、実際に見て改めて感じた。委員からも意見があったとおり、今後は作品を維持し、活用していくことが重要である。予算や賛同者からの寄附を活用して実施された事業であるため、定期的に壁画を中心としたイベントを実施するなど、活用を考えていただきたい。青年会議所が単独でイベントを実施する必要はない。市民公園では、こいのぼり祭りやマーケットなど様々なイベントが開催されているため、それらのイベントと連携・協賛しながら活用することも有効である。そのように取り組めば、青年会議所の負担軽減にもつながり、集客面でも効果が期待できる。独自のイベントを検討することも大切であるが、市民公園で開催される各種イベントとの連携も含め、工夫していただきたい。素晴らしい作品を制作していただいたことに感謝する。今後のさらなる活用を期待する。

全体意見交換・質問

≪審査員同士で確認したいことや事務局への質問について発言≫

【５　閉会】

≪みずなみ未来部長より閉会のことば≫

以上